

2014年5月29日 掲載

物流ニッポン

S NIPPON

2014年(平成26年) 5月29日(木曜日)

【第3種郵便物認可】

第一貨物

ベトナムへ駐在事務所

ロジテムにノウハウ提供

第一貨物(武藤幸規社長、山形市)は23日、ベトナムに駐在員事務所を開設し業務を開始した、と発表した。現地の物流関連の情報収集とともに、日本ロジテムが実施する「小口混載便サービス」に対し、ノウハウを提供。第一貨物の海外展開は中国における3PL(サードパーティー・ロジスティクス)事業が最初で、今回のベトナム進出を機会に海外事業の多角化に取り組む。(高木明)

海外事業の多角化図る

同事務所は4月23日付でハノイ商工局から設立許可を取得し、翌24日から活動を開始。現地に社員2人を派遣しており、情報収集活動とともに、各取引先に対しては現地の物流ニーズなどを聞き取り、システム構築などについて積極支援していく。

また、近く、日本ロジテムがホーチミン・ハノイで小口貨物の混載輸送サービスを開始するのに伴い、特

積輸送関連の事業ノウハウを提供。同グループはこれまで、一時保管や貸し切り輸送(チャーター便)中心に展開していることから、新規事業の運営に全面協力する。

第一貨物の海外進出は比較的新しい。2011年5月にヤマダ電機の中国での物流を手掛けるため、包装資材及び現地物流会社の3社で、合弁会社「上海特耐王第一物流」を設立。現在、

複数店舗向けに家電製品の一時保管や輸・配送業務などを行っている。

第一貨物では「日本ロジテムがベトナム進出20周年を機に小口混載便サービスを開始することになり、当社は日本での特積貨物輸送事業のノウハウを提供し、全面的に協力していくことになった」(経営企画室)としている。